

職業性ストレス簡易調査票の外国版の作成に関する研究（令和2年度）

研究代表者：横山和仁（順天堂大学大学院医学研究科・客員教授）

平成27年の労働安全衛生法改正により、常時 50 人以上の労働者を使用する事業者には労働者のストレスチェックと面接指導等が義務付けられた。ストレスチェックでは、職業性ストレス簡易調査票（57項目）が標準となっている。平成 29 年 6 月末現在、ストレスチェックは実施義務のある事業場の82.9%で行われ、所属労働者の78.0%が受け、0.6%に医師の面接指導が行われている。

一方、平成29年10月末に、外国人労働者数は1,278,670人、雇用事業所数は194,595か所で、平成19年に届出が義務化されて以来、過去最高を更新している。国別は中国が最多（29.1%）、次にベトナム（18.8%）、フィリピン（11.5%）で、対前年伸び率は、ベトナム（39.7%）、ネパール（31.0%）が高い。従って、外国語版職業性ストレス簡易調査票の標準化（信頼性・妥当性確立等）が求められる。英語版はすでに標準化され厚生労働省により公開されているが、他の言語は、一部翻訳版は存在しているもののバックトランスレーション、信頼性・妥当性検証は行われていない。

本事業では、各国語版職業性ストレス簡易調査票を作成・標準化し、文化の違い等を踏まえた、職場環境改善等に配慮すべき点を明らかにすることを目的として3年計画の研究を開始した。最終年度である本年度は以下の3つの研究を行った。

研究 1

本年度は事業の最終年度として、昨年度までに作成した外国語版ストレス簡易調査票（ペルシャ、中国、スペイン、タガログ、ポルトガル、ミャンマー、ベトナム語およびネパール語版）を用いて信頼性・妥当性を検討すべき調査を行った。

ポルトガル語版、ミャンマー語版ともに、Cronbach α 信頼性係数は、良好であった。中国語版の Cronbach α 信頼性係数は良好であった。

ペルシャ語版での検討では、残念ながら十分な労働者の協力が得られなかった。

ベトナム語では信頼性は、「ストレス反応」および「ソーシャルサポート（「上司からのサポート」以外）」において高かった（ $\alpha=0.81\sim0.96$ ）が、「仕事のストレッサー」および「上司からのサポート」は $\alpha=0.39\sim0.66$ であった。仕事のストレッサー17項目の因子分析では、日本語版の尺度構成とは完全には合致しなかった。ストレス反応 29 項目の因子分析では、ほぼ尺度構成に対応した因子構造であることが示された。しかしながら、現場での活用においては、問題は少なく使用できた。

スペイン語・タガログ語・ネパール語版では Cronbach- α 信頼性係数は、ストレス反応を構成する尺度、ソーシャルサポートを構成する尺度は良好であったが、仕事のストレッサーを構成する尺度はやや低めだった。文化的背景や質問の解釈の問題、翻訳の問題等の要因が考えうる。因子分析からはほぼ日本語尺度構成に対応した構造であり、運用上の大きな問題はみとめなかった。

また、これらの外国語版ストレス簡易調査票を用いたストレスチェックの対象となる労働者にストレスチェックを行う事業所のスタッフが、実施にあたり使用してもらえるツールを作成した。

研究2

昨年までの本研究において開発したインドネシア語版職業性ストレス簡易調査票57項目について、1年間の間隔をあけて同じ対象者に再度調査を実施した。対象は宮城県内の水産加工工場に技能実習生として働く18名のインドネシア人であった。2019年から2020年にかけて認められた有意な変化として、質的負担の減少、技能の活用度の低下、および家族・友人からの支援の低下があった。ストレス反応に有意な変化は無かった。各尺度得点を従属変数とし滞在年数と調査回を独立変数とした分散分析の結果、家族・友人からの支援について滞在年数および調査回の主効果とこれらの交互作用が認められ、在日年数が長いほど家族・友人からの支援の低下が大きかった。2020年は新型コロナウイルスの感染拡大により、技能実習生同士を広くつなげるイベントが中止となり相談の機会が減ったこと、先輩として尊敬してきた年長者が技能実習を終えて帰国したことが、在日年数の長い技能実習生の家族・友人からの支援の点数の低下に関連していた可能性がある。本労災疾病研究で開発したインドネシア語版職業性ストレス簡易調査票を用いて、在日インドネシア人労働者のストレスに関する把握が可能であった。日本におけるインドネシア人労働者は今後益々増加することが見込まれており、ストレスチェック制度をはじめとして本調査票の利活用とメンタルヘルス支援が望まれる。

研究3

職業性ストレス簡易調査票により外国人労働者の仕事のストレス状況が正確に測れているのかを明らかにすることを目的として文献的考察を行った。その一助として、職業性ストレス簡易調査票の一部を構成するJob Content Questionnaire (JCQ) に注目し、各言語版のJCQの信頼性および妥当性を比較した。結果、日本語版、ペルシャ語版、ベトナム語版ならびに中国語版JCQの8文献が該当し、信頼性はいずれの文献もsocial supportが $\alpha \geq 0.6$ 、physical job demandsが $\alpha \geq 0.64$ となった。その他項目は $\alpha < 0.6$ を含み一貫していなかった。妥当性は、ペルシャ語版、ベトナム語版ならびに中国語版JCQの7文献が該当し、原版と同様のdecision latitude, psychological job demandsおよびsocial supportと解釈できる共通因子が抽出された。日本語版、ペルシャ語版、ベトナム語版ならびに中国語版JCQにより労働者の社会心理的特徴は捉えられており、JCQが含まれた職業ストレス簡易調査票は、外国人労働者においても仕事のストレスを評価する有用なツールであると考えられる。

今後本年度までに作成した各国語版ストレスチェック質問票及びマニュアルを用いて、我が国で働いている外国人を対象に用い、現場の意見を集めさらなる検討を加える。